



【一生感謝(2)感謝で開ける一年】
聖書の本文:詩篇100篇4節・第一テモテ4:4

説教者: 鄭南哲牧師

歌は、歌うまで歌ではなく、鐘は、鳴るまで鐘ではなく、愛は、表現するまで愛ではなく、祝福は、感謝するまで祝福ではない。幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せに、祝福になるのです。

今年も祝福をたくさん目の前にあるにもかかわらず、感謝できないために祝福を祝福として受け取れない事がどれほど多くあったのか分かりません。幸せだから感謝するのではなく、感謝するから幸せになるわけである事を忘れてはいけません。だからこそ、すべての事を感謝します！告白する人こそ、幸せの鍵で門を開く事になるでしょう。

ブラジル人は“オブリガード(ありがとう)”ということばをたくさん口にしています。家庭や会社で、日常生活で一番多く使われる単語がオブリガードという言葉です。どんなにことば数が少ない人でも、一日にブラジル人は平均十回以上はオブリガードと言うそうです。

アメリカで一番多く使う単語50個を選びましたが、その中でも“サンキュー”は28%を占め、最もよく使う単語として選ばれたという統計があるようにやはりアメリカ人も、一番多く使う言葉が“サンキュー”という言葉でした。

老若男女(ろうにやくなんによ)を問わず、生活の中の小さな事にも“サンキュー”と言います。

成人になると、平均2万6千個の単語を知るようになっていわれています。その中で他人を一番喜ばせる言葉はありがとうという言葉ではないでしょうか。もちろん、この感謝の言葉は神様を一番喜ばせる言葉にもなるでしょう。

“感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。”

(詩篇100篇4節)

イスラエルのユダヤ人の格言(かくげん)には、“ありがとう(トダラバ- (Todah Rabah))”ということばが口になれるまで、子供にほかの言葉を教えるなという事があるようです。

今年一日、そして今年一年みなさんはどれほどの感謝の言葉をよく使って来ていると思いますか。

<2. 感謝を妨げる敵>

私たちは小さな感謝が大きな幸せをもたらすという事実を知っていながらなかなか貴重な我々の人生の中で感謝し続けるのができないのでしょうか。

第一に、私たちが感謝できない一番大きな理由は人の欲のためです。

人の欲は切りがないため神様さえも人の欲を満たす事ができないという冗談があるほどです。人それぞれが強く望み、それを手に入れても人の欲はそれでも満足せず、またさらに多くのものを望み手に入れようとするためなかなか感謝するのができないのではないのでしょうか。

神様が下さった恵みを一瞬にして不平に変えてしまうのが人の欲であります。

もちろん、ある程度のおよは人生の意欲を呼び起こす事もありますが、行き過ぎた欲は自足と感謝を失わせ、不幸を招いてしまう原因となるのです。

だからこそ、私たちは、聖書に登場するパウロの告白のように、満ち足りるすべを知らなければなりません。

「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にも知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」(ピリピ4:12)

この主の御言葉は、満ち足りることを知らない人生は、欲求が満たされても感謝できず、再び不平を出してしまいます。

なので、聖書ではこの一の欲にいつも警戒し、気をつけるように教えて下さっています。

「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」(ヤコブの手紙1:14-15)

二番目に、比較意識も感謝を妨げる大きな敵となります。

実はこの比較意識は欲望の別の顔のようなものでもあります。相手と自分を絶えず比較し、優越感から高慢になったり、劣等感から自己卑下に陥ったりするのです。どちらにせよ、感謝できないことは同じです。

比較意識は、私たちを相対的な貧困に陥れます。相手が自分より多くのものを持っていたり、多くの愛を受けていたり、より高い学歴や才能を持っていると比べて比較し始めると、感謝は消え去ってしまうでしょう。

愛するみなさん、サタンは絶えず、我々が比較することによってやきもちの奴隷に転落させ、尊い自分の人生をみじめにさせてしまいます。実は比較は、人間がする一番おろかな選択であります。

自分は格好悪い、とても太っている、とてもセが低い、頭が悪い、良い大学を出ていない、自分の家が狭い、お金をもっていない。。。などこれらすべては結局他人とと比較することにすべての関心を注いでいるため、本当の自分や自分の価値を見る事ができなくなり、いつも自己卑下や自己憐憫に陥らせてしまいます。

このような比較意識にとらわれたら、神様の御言葉を思い出す必要があるでしょう。

“あなたはわたしの子供であり、私が瞑った最高の傑作品の存在である”

そして、最後に、心配と言うものも感謝できないように妨げるものの一つでしょう。

人の心配する内容のうちの90%は、すでに過ぎてしまった過去や、まだ起きていない未来に関することだと言われています。

10%のみが現在に関する事であり、だからこそ、イエスは心配は無用(マタイ6:3)であると教えて下さいながら、“あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願いことを神に知っていただきなさい。(ピリピ4:6)”命じてくださいました。

ここで、感謝をもって捧げる祈りとは、過去に受けた恵みと、現在与えられているすべての祝福、さらには現在のつらい状況まで、すべてが益となる事を信じて、先取りして感謝することです。感謝する心こそ、我々の人生に厚くおおっていた心配の黒雲を一掃(いっそう)させる事ができると信じます。

心と言葉に欲や比較や心配の種が育てられないように2014年はさらに気をつけましょう。

<3. 感謝にもレベルがある>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんは感謝にもレベルがある事を知っていますか。第一のレベルの感謝は、条件付き(IF)の感謝であります。「もし私が他の人よりもっと成功し、より多くのものを所有できるなら、私の願う通りに物事がそうなれば」「感謝します」という条件付きの感謝のレベルです。しかし、これは、他の人と比較して、常に自分が持って入れれば感謝するけど、持っていないものばかり考えて、他の人と比較して不平を言いながら不幸の環境を招きます。これは実は子供レベルの感謝にすぎないレベルです。いつも他の人と比較して幸せを図ります。いつも自分にあるものは見えず、いつも子供のように、他の人の手にあるおもちゃをほしがって不幸を味わいます。軽自動車に乗っていれば、中型車に乗っている人をうらやましく思い、中型車に乗るようになると、高級車に乗っている人をうらやましく思い、高級車に乗れば、今度は外国のスポーツカーに乗っている人がうらやましくなるのです。このように欲は尽きることがなく、なかなか感謝する心が生まれません。

この第一のレベルの感謝よりも少し良い感謝の第二のレベルがあります。実は大部分の人がここに該当(がいとう)されるのではないかと思います。何かを受け取ったから(because)感謝する事です。誰かと比較して自分が相手より優れたり、恵まれたり、手に入れた時、自分が受けたものに対して感謝する段階です。つまり、自分が得た物より下の物や人、あるいは自分よりも不幸な人と比較して、満足感と感謝を見つける人です。歩ける人は、病院に寝ている人を見て、車がある人は、車がなくて歩いている人を見て、今自分が乗っている車を運転する人は、それより下の車に乗っている人を見て、相対(そうたい)的に自分が誰かよりも優れている事を感謝するのです。もちろん、信仰の面では、神様から頂いた恵みを覚えて感謝する人たちもいます。もちろん、神様は、受けた恵みを覚えて感謝する人を喜んで下さいます。しかし、この第二のレベルの感謝は何かを頂いたからするという感謝にすぎないからです。神様は、わたしたちがさらに高い段階の感謝に引き上げられる事を望んでおられます。

三つ目に、第三レベルの感謝は、不幸な体験をして大変で辛かったり、物事がうまくいなくても、何か自分に益となる事もなく、むしろ自分に損になっているのにもかかわらず、「それにもかかわらず(In spite of)感謝するレベル」で、あらゆる悪条件の中でも、神様がついにはすべてを必ず益として下さる事を信じて、すべての事に感謝する段階です。条件付きの感謝ではなく、条件を超えた感謝であります。人間的に見ると、与えられているものもなく、むしろ苦しいことが続き、すべてのものを失ったとしても感謝するレベルなのです。このような人はどんな状況でも、すべてのことを神様の御心として受け入れ、感謝の理由を見つける事ができる段階です。今年のみなさん、自分の感謝のレベルは、どの段階だったと思いますか。新しい2014年新年には我々の感謝の水準を高めましょう。そうすると、自然にみなさんの信仰の水準も共に引き上げられると信じます。

<4. ブーメランのような言葉>

残念なことに、昨年のことを振り返ってみると、私たちは感謝することになかなかけちな場合が多かったのではありませんか。もし形式的な感謝はしても、本当に、心からの感謝の言葉を伝えたのは意外と少ないかも知れません。

却って同じ口から出る言葉でも、ある言葉はばらのような香りを放ち、ある言葉はとげのように相手をさして、傷つけてしまった事があるかも知れません。私たちは他人の言葉には簡単に腹を立てて傷を受けるのに、自分が使う言葉にはなかなか気を遣わない時がよくあるかも知れません。自分が発した言葉によって、相手がどれほどの深い傷を負い、うめいていたとしても、聖書ではむしろ口から感謝の言葉が出れるように命じています。

「みだらなことやおろかな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ感謝しなさい。」(エペソ 5:4)

聖書では他人を傷つけるとげのような言葉は、いつか自分にも返って来ると約束して下さっています。

まるで、蚕(かいこ)が自分の口から出る糸で家を作って生きるように、人も自分の口から出る言葉で自分の人生を作り上げているのではないのでしょうか。フローレンススコウエルシンという人は次のように話しています。

“他人に与えるものは、必ずいつか戻ってくる。人生はブーメランだ。私たちの考え、ことば、行動は、いつになるかは分からないけど、必ず返ってくる。そしてそれらは、不思議な事に自分自身に命中(めいちゆう)するのだ。”

不平の言葉も、感謝の言葉も、いつかはこだまとなり、自分の人生に戻ってくる。それが人生の法則であると聖書が教えて下さっています。

「あなたは彼らに言え。これは主の御告げである。わたしは生きている。わたしは必ずあなた方に、わたしの耳に告げたその通りをしよう。」(民数記14:16)

神様はわたしが語る通り、神様の耳に聞こえる通り、その人の人生がそうなるようにされるお方である事を忘れないで下さ

い。2014年も感謝する事でぐみなさんの環境が変わるわけではないかも知れません。しかし、感謝する時こそ私たち自身自身が変わって行けます。わたしたちの心がさらに豊かになり、人生や人に対する心の余裕ができるようになる、そして人生を見る視覚の深さが見れるようになります。今みなさんに感謝する心と言葉が出始めると、今みなさんがいるところが天国に変わると信じます。

<5. 信仰の人たちの共通の品性:感謝!>

聖書に出てくる信仰のすばらしい方々の共通する特徴は感謝することです。感謝は受けたことを受けたと言える事です。何かを施してくださった方からいただいたことを感謝することです。ダビデ王は感謝の生涯でした。神様からいただいた恵み、つまり、イスラエルの民たちが神様からいただいた恵みをかぞえながら感謝しました。

“わがたましいよ。主をほめたたえよ。主のよくしてくださったことを何一つ忘れるな。主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。(詩篇 103:2-5)”

そして、ダニエルの生涯も命をかけて神様に感謝し続けていた信仰と人生でした。ダニエルは感謝の祈りをいのちのように思っていました。バビロンの王の命令を拒むと獅子の穴に投げ込まれ死ぬことを知っているのにもかかわらず祈り、さらに祈りながら感謝しました。“ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。一彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。一彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。”(ダニエル書6:10) 使徒パウロも絶えず感謝する人でした。特に注目すべきところは使徒パウロの感謝を一言で表すと、とげの感謝でした。彼は病を持ち、それを肉体のとげと読んでいました。自分の体のとげのため、彼はいつも苦しんでいました。しかし、自分の弱さをむしろ感謝し、自分の受けた苦難と過去のあやまちさえもすべて感謝しました。

“ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、苦難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。”(第二コリント12:10)

“あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。(コロサイ人への手紙2:6-7)”

実はだれより我らの救い主なるイエス様の生涯が感謝で満ちて生かれた方でした。感謝すべき理由があるから感謝されたのではなく、感謝がイエス様の習慣であり、行き方そのものでした。

愛する信仰の家族のみなさん、感謝の品性は成熟した信仰のしるしです。

霊的成熟と未熟さは感謝する態度でわかります。信仰がない人の特徴は神様に感謝することを知らないし、できないということでしょう。そしてまだ未熟な人の特徴も神様に感謝しないことです。“それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。”(ローマ人への手紙 1:21) 感謝しないたましいは神様に栄光をささげることができないと言われます。神様に感謝のできない思いはむなしくて、愚かで暗くなるのだと言われます。フランシスシェパという有名な神学者は“人々が神様に反逆し始める時は感謝する心がない時であって、いまもそうである。”と言いました。反面感謝するたましいは神様を喜ばせます。“感謝のいけにえをささげる人は、わたしをあがめよう。その道を正しくする人に、わたしは神の救いを見せよう。”(詩篇50:23) 成熟すれば感謝することができるようになりますが、同時に感謝すれば成熟します(コロサイ3:16-17)。聖霊に満たされた人の特徴は感謝にありました。

アメリカを建国(けんこく)した清教徒(せいきょうと)クリスチャンたちはささげものについて二つの責任を強調しました。一つは、神様に感謝を捧げるべき責任であり、もう一つは、困っている隣人に分け与えるべき責任だったのです。そのためする、清教徒クリスチャンたちが建国したアメリカでは、富を社会に還元(かんげん)する国の始めの時から寄付の文化が定着されている事が分かります。ビルゲイツ、パフエジット、カーネギー、ロックフェラー、ヘンリフォードなど、私たちがよく知っている人たちは、お金を稼いだだけではなく、それを豊かに分け与えた人たちでもっと有名な人たちです。彼らは、自分たちに財産を築き上げさせてくれた教会の家族や市民のために感謝の心を表して、教会や地域の福祉施設である図書館や学校、孤児院、老人ホームなどを建てて、その恩に感謝を表したのです。それはすべてアメリカの国が始まるごろの清教徒クリスチャンたちが神様に2つの責任を保った事が国の根本と土台になったから今日までその信仰と精神が流されているのではないのでしょうか。今年も我々にも同じ責任が与えられています。神様に感謝を捧げるべき責任、そして困っている隣人に分け与える責任です。その責任を果たしているうちにいつの間にか自分自身が、家族が、教会が、この町、この国が変わって行くと思えます。

神様は、とても小さな私を選ばれ、小さな私を愛され、小さな私を喜ばれました。世界のすべてのことは、小さなことから始まりました。小さな感謝、小さな愛、小さな微笑み、小さな分かち合い、小さな祈り、小さな実践、小さなことをいつくしみ大切に思われる心が神様の御心であると信じます。我々もまた、小さなことに感謝し続け、一生感謝の人生となりますように。始まった2014年新しい新年、今年もずっとどんな場合にも感謝する一年となるように祈りましょう。今年がきっかけで一生感謝する祝福された人生となるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン!

【クリスチャンプレイズチャーチ2014年元旦礼拝の分かち合い(Sharing)】

1. 昨年神様の恵みと祝福を覚えつつ、あなたの感謝を3つ書いて分かち合しましょう。

- * 私は()を感謝します!
- * 私は()を感謝します!
- * 私は()を感謝します!



2. だれかに感謝を表すべきなら、今あなたは誰に一番感謝を表せたいですか。なぜですか。

私は()に感謝します!

なぜなら、()

3. 昨年、自分がなかなか感謝するのができなかったならば、自分の中でどんな原因のためだと思えますか。

:

4. 2014年中、下の神の御言葉を信じて、先取って感謝したいことを2つぐらい書いて見ましょう。

* ローマ人への手紙8章28節:「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

* マタイの福音書6章30、32節:「神はましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。」

* わたしは、今年神様が()ように成して下さる事を信じて感謝します!

* わたしは、今年神様が()ように成して下さる事を信じて感謝します!

***【感謝誓約(A Pledge of Thanksgiving: 감사서약)】**

- * 私のような罪人が神のこどもとされたという驚くべき恵みを常に覚え、感謝します。
- * 私は、自分が受けた祝福を当たり前のように思わないようにします。
- * 一日一回、時間を取って、自分が受けた人生の贈り物たちを数えて見ながら感謝します。
- * 平凡な日常生活の中にも小さな感謝を見つけながら感謝して歩みます。
そして、自分に与えられた賜物を他人と比べる愚かな事はしないように注意します。
- * すべてのことについて不平の代わりに感謝を選ぶ幸福な人になります。
- * たとえ私の人生に苦難という冬が訪れても、生涯を見通し、最後には最善の道へ導いて下さる神様を信頼し、感謝の歩みを選択します。
- * 私の生涯の最後の瞬間にささげる言葉は、「神様にすべてを感謝します!」でありたいです。

5. 最後に今年一年、神様の前で、あなたの感謝誓約文も作ってみましょう。

私は、

